

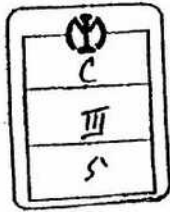
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

国立公文書館	
分類	④ ⑤
配架番号	3 A
	15
	59-2

7140

国立公文書館	
分類	
	③ ④
配架番号	3 A
	15
	59-2

59-2



最近ノ諸外國ニ於ケル自動車工業
ノ保護政策並ニ其ノ現況ニ就テ

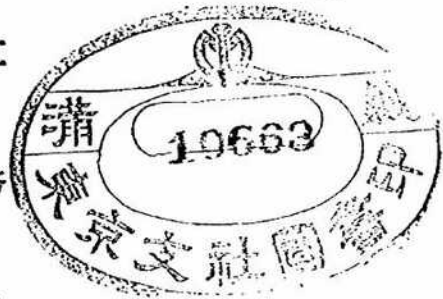
昭和十一年一月

商工省

工

務

局



獨逸

目次

第一、自動車工業ノ保護政策

一 關稅政策

一 自動車輸出獎勵施設下自動車工業ノ保護

二 自動車輸入許可制度下自動車工業ノ保護

三 自動車ニ關スル各種稅ノ減免政策

四 新規ニ使用セラルル乗用自動車ニ對スル免稅

(一) 中古品ニ對スル稅率ノ低下

(二) 印紙稅ノ輕減

(三) 工業設備及機械ノ補充修繕ニ關スル免稅政策

五 其ノ他自動車ニ關スル諸政策

(一) 自動車道路ノ建設

(二) 全國交通法規ノ統一

(三) タイヤ組合ノ統制強化

第二、自動車價格管理會社ノ創設ニ依ル自動車價格ノ保護

第三、自動車工業ノ現況

一 使用狀況

二 生産及販賣狀況

三 輸出入狀況

四 才ペル株式會社ノ現況

伊太利

第一、許可事業ニ依ル自動車工業ノ統制

第二、伊太利ニ於ケル自動車工業ノ保護施設

一 關稅政策

二 輸出獎勵策

三 輸入割當制度

第三、伊太利自動車工業ノ概觀

一 使用狀況

ニ生産状況
ニ輸出入状況

チェコスロヴァキア

- 第一、一般企業ノ統制策ト自動車工業
- 第二、關稅政策
- 第三、其ノ他自動車工業獎勵ト見ラル可キ政府ノ諸施設
 - 一、補助金ノ交付
 - ニ、需要強化策トシテノ國產獎勵
- 第四、チェコスロヴァキア國ニ於ケル自動車使用台數、生産額及製造會社

瑞 西

- 第一、自動車及部分品ノ輸入許可制度
- 第二、自動車工業概觀
 - 一、使用状況
 - ニ、生産状況

奧太利

第一、自動車工業ノ保護政策

一、關稅政策及輸入制限

二、需要強化策トシテノ國產獎勵

第二、使用狀況及生産狀況

米 國

第一、關稅政策

第二、自動車工業概觀

一、使用狀況

二、生産狀況

三、輸出入狀況

英 國

第一、關稅政策

第二、自動車工業概觀

- 一、使用狀況
- 二、生産狀況
- 三、輸出入狀況

佛蘭西

- 第一、補助金ノ交付
- 第二、關稅政策
- 第三、自動車工業概觀
 - 一、使用狀況
 - 二、生産狀況
 - 三、輸出入狀況

ソヴィエト聯邦

- 第一、自動車工業ノ國營
- 第二、關稅政策
- 第三、自動車工業概觀

- 一 使用狀況
- 二 生産狀況
- 三 輸出入狀況

加奈陀

- 第一、關稅政策
- 第二、自動車工業概観
 - 一 使用狀況
 - 二 生産狀況
 - 三 輸出入狀況

獨逸

第一、自動車工業ノ保護政策

一、關稅政策

獨逸ニ於ケル自動車ノ關稅率ハ從量稅ニシテ

自動車及部分品

自動自轉車及部分品 百疋ニ付 一六〇麻克

其ノ他

一個ノ重量三二〇〇疋ヲ超エザルモノ 百疋ニ付 七五麻克

一個ノ重量三二〇〇疋ヲ超エザルモノ 百疋ニ付 四〇麻克

一個ノ重量三二〇〇疋ヲ超ユルモノ 百疋ニ付 三〇麻克

ナルガ今比較ノ便宜上之ヲ相當從價稅ニ換算シタルモノヲ
他ノ主要歐洲諸國ノ關稅率ト共ニ掲グレバ

國名	乗用車 (從價)	貨物車 (從價)
獨逸	一六・七一 二八・〇%	一五・二一 一九・八%
佛國	四五・〇一 五五・二%	四五・〇一 五七・二%
スペイン	四七・五一 九〇・四%	二三・二一 三〇・二%
ポランド	八六・二一 一三八・四%	九八・四一 一一八・二%
伊國	一三三・八一 一九五・八%	一三八・六一 一七六・一%



但シ右表中ニハ獨逸以外ニモ從量稅ヲ相當從價稅ニ換算シタルモノアリ

右表ニ示ス如ク獨逸ノ自動車關稅ハ極メテ低率ナリシ爲獨逸ノ自動車工業ハ數年前迄ハ未ダ國內市場ヲ完全ニ風靡スル程度ノ發達ヲ見ズ、年々多數ノ外國車及之ガ附屬品ノ輸入ヲ爲シツツアリタル處「ヒツトラ」政府成立後自動車工業ノ國防的重要性ヲ認メタルト、且亦經濟界一般ノ自給自足主義ニ驅ラレタルトニ依リ、國產狀態大イニ振張ヲ見タルノミナラズ對外輸出ニ於テモ漸次其ノ地盤ヲ確保シツツアリ、而シテ最近發表セラレタル獨逸自動車工業組合ノ同國自動車工業營業狀態ニ關スル報告ニ依レバ一九三四年ニ於ケル獨逸自動車輸出總額ハ二千九百五十萬麻克、之ニ對シ同年ニ於ケル外國自動車輸入額ハ一千二百萬麻克ニシテ輸出ノ約四〇%ニ過ギズ。獨逸ノ自動車對外貿易ハ相當ノ輸出超過ヲ示シツツアリ、然ル處最近獨逸自動車組合ハ經濟省ニ對シ右輸入外國自動車ヲモ驅逐シテ爲替ノ流出ヲ防グ可ク諸外國ノ例ニ倣ヒ輸入ニ

對シ禁止の高率關稅ヲ課シ、且亦自動車^{輸入}爲ニスル爲替許可
並ニ外國「クレヂイット」ノ設定ヲ禁ズ可キヲ請願セリ（但
シ既ニ輸入セラレタル自動車ノ部分品ノミハ例外トス）右ニ
對シ販賣業者並ニ輸出業者筋ハ猛烈ナル反對運動ヲ起シツツ
アリ、反對筋ノ主張ハ舊來獨逸ガ輸入自動車ニ支拂ヒタル巨
額ノ爲替ニ比シ年々壹千二百万^{マルク}ノ輸入ハ甚ダ僅少ナルノ
ミナラズ、獨逸自動車ノ輸出ガ漸ク旺盛トナリタル折柄、外
國車ノ輸入ヲ防遏スル如キハ却テ外國側ノ應酬政策ヲモ誘致
スルニ至ル可ク爲替拂底ニ惱ミツツアル獨逸經濟界全体ニト
リ不利ナル結果ヲ齎ス可ク、國內需要ガ將來益々増加スルヲ
見越シ輸出ヲ重視セザル自動車工業ノ利己的立場ニノミ迎合
ス可キニ非ズト謂フニ在リ、政府筋ハ右抗爭ニ關シ未ダ決定
的裁斷ヲ下サザルモ或程度ノ外國車輸入ハ國內ニ於ケル自動
車製造技術ノ發達ヲ刺戟シ、且自動車工業ノ過度ノ自利本位
主義ヲ壓制スルニ適スルモノナリトノ意見ニ傾キツツアルガ
如ク、獨逸ノ自動車對外貿易ガ相當程度ノ出超ヲ維持シツツ

アル限り、容易ニ自動車工業組合ノ希望ハ容レラレザルモノト一般ニ觀測セラレツツアリ。

三 自動車輸出獎勵施設ト自動車工業ノ保護

一九三三年以來當業者ト政府側トノ協議ノ上ニテ自動車業者ノ組合長ハ組合員ヨリ會費及國內ノ販賣者ノ賣上額ニ應シテ一定ノ分擔金ヲ徵集スル權限ヲ得テ右ノ資金ヲ輸出獎勵金トナシ之ヨリ輸出車ニ對シテ輸出金額ノ二%乃至八%ヲ助成金トシテ交付シ居リタルガ獨逸政府ハ一九三五年六月二十九日附公布ノ法律ニ依リ輸出獎勵金積立竝ニ交付ノ規定ヲ制定シ、國內販賣額ノ一定率ヲ積立テ之ヨリ輸出商品ニ對シ獎勵金ヲ交付スルコトトセリ、(同年四月一日ニ遡リテ徵收)

而シテ一九三五年一月ヨリ全年五月迄ノ五ヶ月間ニ輸出車ニ割當テ交付シタル金額ハ總額三五〇万R・M・ニ上リ一臺當平均四〇〇R・M・即チ一臺ノ輸出値段(原價)ニ對シ約二五%ノ獎勵金ヲ交付シタリ。而シテ同年七月一日以後ハ各社國內販賣高ノ平均三%ヲ積立テルコトトナリ將來一台ノ輸出

金額ノ平均約四五%迄獎勵金ヲ交付スル意嚮ナル趣ナリ。

三 自動車輸入許可制度ト自動車工業ノ保護

從來獨逸政府ハ商品管理所ニ對シ輸入商品管理權ヲ附與スルト共ニ爲替管理ニ依リ相當外國貨物ノ輸入ヲ防止シ以テ國內産業ヲ保護スルコトニ努メ居リタル處一方Ford會社ノ如キ資力アル外國會社ガ輸入代金ヲ獨逸國內ニ蓄積シ多少ノ不利益ヲ顧ミズ猶相當ノ輸入ヲ爲シ國內幼稚産業ヲ壓迫スルコトアルト共ニ將來何等カノ形式ニヨリ右國內蓄積資本ヲ海外ニ持出サルルノ虞アルコトヲ顧慮シ、自動車及其ノ部分品其ノ他特殊ノ機械、器具並ニ硝子製品其ノ他贅澤品等多數ノ商品ニ付一九三五年七月二十七日附輸入許可規則ヲ設ケ國內産業ヲ保護スルコトトセリ。

之ニ付Ford會社ト獨逸政府トノ間ニ問題ヲ生ジタリ。即チ

Ford會社ハKoreaニ工場ヲ新設シ、八輪車ノManufacture

ヲ製造シ之ヲ急速貨物自動車トシテ供給スル計劃ナリシ

處、同年七月ノ輸入許可制度ノ制定ニ依リ本國ヨリ部分品特

金額ノ平均約四五%迄獎勵金ヲ交付スル意嚮ナル趣ナリ。

自動車輸入許可制度ト自動車工業ノ保護

從來獨逸政府ハ商品管理所ニ對シ輸入商品管理權ヲ附與スルト共ニ爲替管理ニ依リ相當外國貨物ノ輸入ヲ防止シ以テ國內産業ヲ保護スルコトニ努メ居リタル處一方Ford會社ノ如キ資力アル外國會社ガ輸入代金ヲ獨逸國內ニ蓄積シ多少ノ不利益ヲ願ミズ猶相當ノ輸入ヲ爲シ國內幼稚産業ヲ壓迫スルコトアルト共ニ將來何等カノ形式ニヨリ右國內蓄積資本ヲ海外ニ持出サルルノ虞アルコトヲ願慮シ、自動車及其ノ部分品其ノ他特殊ノ機械、器具並ニ硝子製品其ノ他贅澤品等多數ノ商品ニ付一九三五年七月二十七日附輸入許可規則ヲ設ケ國內産業ヲ保護スルコトトセリ。

之ニ付Ford會社ト獨逸政府トノ間ニ問題ヲ生ジタリ。即チ

Ford會社ハ茲ニKoernニ工場ヲ新設シ、八輪車ノManufactureヲ

Wagenヲ製作シ之ヲ急速貨物自動車トシテ供給スル計劃ナリシ處、同年七月ノ輸入許可制度ノ制定ニ依リ本國ヨリ部分品特

ニシテ及ルベクノ輸入ヲ爲スニ甚ダシク不便
シ感ジ取扱緩和方ヲ交渉シ、之ニ對シ獨逸政府ハ必要ナル部
分品ニシテ獨逸國內製品ヲ以テ供給困難ナルモノ及獨逸國製
品ガ技術的ニ充分ナラザルモノノ輸入ハ之ヲ認ムルモ、其ノ
代金ノ支給ハ十ヶ年賦ニスルコトヲ言明シ、之ニ對シ一方Ford
會社ヨリ獨逸國產部分品ヲ輸入部分品ト同一價格ヲ以テ供給
ヲ受ケ得ル様獨逸政府ノ配慮方ヲ要求シタル由ナリ。之ニ對
スル獨逸政府ノ回答ハ未詳ナリ。
尙獨逸政府ガ刻下最モ力ヲ注ギツツアル失業救濟事業ニ必要
ナル自動車全部國產品ヲ使用セシメFordニハ全然註文ヲ發セ
ザル由ナリ。

四 自動車ニ關スル各種稅ノ減免政策

獨逸政府ノ最近二年半ニ於ケル自動車業助成政策ノ最モ中心
ヲ爲スモノハ乗用車 (Omnibus) ヲ含マズニ對スル免稅
政策ニシテ尙其ノ他種々ノ料金ニ於テモ不撓輕減ヲ講ゼラレ
其結果ハ斯業ノ發展ニ大ナル貢獻ヲ爲シタルモノト觀ラル、

上記ノ減免稅ニ關スル諸法律ノ極々概略ヲ次ニ述ブルコトト
セン。

(イ) 新規ニ使用セラルル乗用自動車ニ對スル免稅

一九三三年四月一日以後警察ノ使用許可ヲ得タル乗用自動
車（及乗用オートバイ）ニ對シテハ總テノ稅ヲ免除ス（一
九三三年四月十日附自動車稅法ノ改正）其後更ニ右免除規
定ヲ一九三三年三月二十六日以後同年三月三十一日迄ニ使
用許可ヲ受ケタルモノニモ準用スルコトトセリ。

更ニ又其後一九三三年五月十日附法律ニ依リ同年三月三十
一日以前ニ許可セラレタル練習用自動車、試験用自動車及
短期使用許可自動車ニ對シテモ課稅規定ヲ變更シテ免稅ス
ルコトトセリ。

(ロ) 中古品ニ對スル稅率ノ低下

次ニ前記新使用許可車ノ免稅政策實施ノ結果當然古自動車
ノ價格激落ヲ來タシ之ガ却ツテ新車ノ販賣ニモ影響スルコ
トトナリシ爲一九三三年五月三十一日附法律ヲ以テ燃焼動

力 (Antrieb durch Verbrennungsmotoren) ヲ使用スル自動車
ニシテ一九三三年三月三十一日以前ニ使用許可ヲ受ケタル
モノニ對シ税金一時拂ノ方法ニ依リ同年十一月一日迄ニ請
求シタルモノニハ將來ノ課税ヲ免除スルコトトセリ。
以上ノ規定ハ夫々實施期限ヲ限定シタルモ其後之ガ延期ヲ
爲シ更ニ又一九三五年二月二十八日ニハ電氣又ハ蒸氣ヲ使
用スル乗用車(バスヲ除ク)ニシテ同年四月一日以後使用
許可ヲ得ルモノニ限り税ヲ輕減シ且同種ノ舊車及將來許可
セラルベキヌバイヘル瓦斯又ハ石炭瓦斯ヲ使用スル自動車
ニ對シテハ別ニ緩和セル税率ヲ定メタリ。其他右一九三五
年二月二十八日ノ改正法ハソリツドイヤリ使用ノ車ニ對
スル附加税ヲ廢止シ試驗用車及附屬貨物車ニ對スル特別税
ヲモ廢止セリ。

ハ) 印紙税ノ輕減

Prussen ニ於テハ一九三三年五月二十三日印紙税法ニ依
リ自動車業ノ註文書及證明書ニ新ニ印紙税ヲ課シタルガ

其後一九三四年十二月二十二日附法律ニ依リ此規定ヲ廢止シタルノミナラズ自動車（乗合自動車ヲ除ク）ノ賣買契約輸出契約（之ニハ或條件ヲ附セラル）ニ付印紙稅ヲ免除セリ。而シテ右規定ハ一九三五年九月三十一日迄有効ナリ。

(二) 工業設備及機械ノ補充修繕ニ關スル免稅政策

本制度ハ元來失業救濟政策ヨリ出デ同時ニ國產品ノ使用獎勵ヲ兼ネタルモノニシテ一九三三年六月一日附法律（其後一九三四年十一月八日及一九三五年一月十六日ニ改正アリ）一九三三年十二月十三日施行令ニ依リ一九三三年七月一日以後一九三四年十二月三十一日迄ノ間工業及農業ニ於ケル設備及機械其ノ他ノ修繕及補充的購入ニ付一般的ニ所得稅營業稅、會社稅ガ免除セラレ之ガ間接的ニ自動車生產費ノ低下ヲ來タシ著シク自動車ノ購入ヲ増加セシメタリ此免稅ニ付テハ勿論國產品ノ使用ヲ條件トシ且從業員數ノ維持乃至増加ヲ條件トセリ。

其ノ他自動車ニ關スル諸政策

(1) 自動車道路ノ建設

獨逸政府ハ失業者救済（現在猶四〇〇万人ノ失業者アリ）施設トシテ全國ニ自動車網ノ敷設ヲ行ヒツツアリ之ガ爲政府ハ一九三三年六月二十七日ノ法律ヲ以テ全國自動車道路會社ヲ設立シ公法人トシテ自動車道路ノ建設並經營ノ獨占權ヲ附與シ政府ハ其ノ專業ノ監督ヲ爲スコトナレリ。右會社ハ獨逸鐵道會社ノ姉妹會社トシテ設立セラレ全長約五千軒ノ一大道路網ヲ敷設シ主トシテ貨物遠距離輸送ヲ獨占的ニ行ハントシ居ルガ此獨占專業（貨物一手輸送）ニ付テハ目下政府特ニ *Hitler* ニ相當難色アル模様ナリ

(2) 全國交通法規ノ統一

從來自動車交通法規（*der Verkehr mit Kraftfahrzeugen*）ノミガ全國的ニ整備セラレ其ノ他ノ交通法規ハ地方的ニシテ交通ノ發達ヲ阻害セルモノアリタルヲ以テ一九三四年五月二十八日全國交通法ヲ發布シ之ガ統一ヲ圖レリ。

尙其ノ他自動車運轉免許狀ノ等級廢止、運轉受験ノ緩和（自動車學校卒業義務ノ廢止等）ヲ圖ル所アリタリ。

ハ) タイヤ組合ノ統制強化

一九三四年七月十八日附

4. Anordnung einer Marktregelung für
die Kraftfahrzeugreifenindustrie
ヲ發布シタイヤノ強

制組合ノ統制ヲ強化シ同法實施ノ日ヨリ乗用自動車、配達用車、大型飛行機（Reisenluft）オートバイ、小型自動車、電氣遊覽自動車（Elektrokarre）ノ護謨輪生産業ハ強制的ニ此組合ニ加入セシメラルコトナリ、上記ノ車輪ノ新規事業ノ開始、既存事業ノ經營ノ擴張、既存事業ノ擴張ヲ禁止セリ（但シ一部ノ除外例ヲ留保セリ）本施設ハ生産統制ヲ主タル目的トセルモノナルモ同時ニ自動車部分品工業ノ保護ヲ加味セルモノノ如シ。

第二、自動車價格管理會社ノ創設ニ依ル自動車價格ノ保護

一九三三年九月有限責任會社獨逸自動車監理會社創立セラレ翌年一月一日ヨリ事業ヲ開始セルガ此設立ニハ官民協議シ各

種委員會ノ決議ヲ經タルモノニシテ其ノ設立ノ目的ハ當業者
全体ノ利益ヲ圖ル爲共同價格ヲ決定シ其ノ監督ヲ爲スニ在リ
テ、會社ハ斯業ノ投賣、不合理ナル割引、間接又ハ直接ノ景
品附賣出、無賃ギ―ビス等ヲ嚴重ニ監視シ市場統制ヲ圖リツ
ツアリ。即本會社ハ自動車價格保護カルテルノ性質ヲ有シ全
國自動車組合聯合會 (Reichsverband der Automobilindustrie)
ニ代リテ價格ノ維持ヲ圖ルコトヲ目的トシテ設立セラレタル
モノナルガ、其ノ會長ハ右聯合會ヨリ任命セラレ、總テノ營
業者ハ事實上各組合ニ加入シ居レルヲ以テ本會社ハ制度上強
制カルテルニ非ザルモ當業者ニ對シ相當ノ強制力ヲ有ス。
而シテ本會社設立以前ニ於テモ全國自動車組合聯合會ハ努メ
テ新車ノ價格維持ヲ圖リ、外國車ノ廉價提供ニ依ル國產會社
ニ對スル壓迫ヲ防止シ且國產會社相互間ノ無用ノ競争ヲ避ク
ルコトニ努力シ來リタルモ、實際上

- (A) 新車ヲ賣ル場合ニ購入者ノ古車ヲ特ニ高値ニ評價シ
- (B) 試験用車ノ名儀ヲ以テ新車ヲ販賣シ

(C) 或期間景品ノ形式ニ依リ補修部分品ヲ無償提供スル等ノ方法ニ依リ事實上新車ノ値引ヲスル者多カリシヲ以テ之ヲ防止スル爲本會社ニ對シ次ノ權限ヲ附與シタリ。

(I) 製造販賣ニ於ケル合理的競争ハ制限セザルモ唯不正競争ヲ嚴ニ監視シ取締ヲ爲スコト

例ヘバ景品其ノ他ノ名儀ヲ以テ購賣者ニ物品ノ提供ヲ爲スガ如キ事實上ノ値引トナルベキ行爲ヲ取締リ或ハ同業者ニ對シ惡宣傳ヲ爲スコトヲ取締ルコト等。但シ新車販賣後一定期間無料修繕等ノ眞ノサービスノ提供ハ之ヲ認め居レリ。

(II) 販賣者ニモ適當ナル利潤ノ餘地ヲ殘スト共ニ需要者ノ購入ヲ可能ナラシムル様公定價格ヲ設クルコト。

(III) 中古車トシテ賣却シ得ルモノハ一萬軒以上使用シタル車ニ限り其ノ賣買値段ハ本會社ノ評價委員會ノ決定ニ從フコト。

而シテ右取締ニ違反スル者ニ對シテハ過怠金ヲ課スルコト

トセリ。

第三、自動車工業ノ現況

一使用狀況

最近ニ於ケル獨逸ノ自動車現在台數ハ左ノ如シ。

年別	十月一日現在		貨物車		計	
	現在台數	一箇年間ニ於ケル増減台數	現在台數	一箇年間ニ於ケル増減台數	現在台數	一箇年間ニ於ケル増減台數
一九三〇年	507,154	1	149,211	1	357,943	1
一九三一年	508,667	7,513	152,663	17,451	356,000	10,057
一九三二年	483,537	減 25,130	143,717	減 8,946	339,820	減 16,180
一九三三年	507,883	24,346	152,113	17,000	355,993	16,173

ニ生産及販賣狀況

獨逸ニ於ケル自動車界ノ現況ハ Opel: Daimler-Benz: D.K. L. Adler 等ノ國產車ノ生産及販賣ノ數量ガ著ルシク増加シ



ホド
ヲ除ク他ノ外國車ノ輸入ハ幾分減少セルカ或ハ漸ク現狀ヲ維持セル程度ニシテ一九三〇—一九三四年ノ生産額ハ次ノ如シ

年別 / 種類別	乗用車 台	貨物車 台	乗合車 台	計 台
九三〇年	七七、二九〇	一八、二九七	三九三	九五、九八〇
九三一年	六三、五五〇	一四、八七五	一五九	七七、五八四
九三二年	四二、一九三	八、〇八二	一四二	五〇、四一七
九三三年	九二、六一〇	一三、四〇四	八一八	一〇五、八三二
九三四年	一四七、三三〇	二七、三二五	八一八	一七四、六五五

註、乗合車ニアリテハシヤシ—ハ一九三一年迄ハ貨物車ニ、爾後ハ乗合車ニ含マル

次ニ販賣ノ數字ヲ見ルニ

年別 / 種類別	乗用車 台	貨物車及乗合車 台	計 台
一九三二年	四四、八四二	九、〇三六	五三、八七六
一九三三年	九二、四八五	一三、五九〇	一〇六、〇七五
一九三四年	一四四、五四二	二七、七六〇	一七二、三〇二

更ニ此増加ノ趨勢ハ本年ニ入りテ特ニ乗用車ニ於テ顯著ナル
 モノアリ
 而シテ前記ノ販賣車ヲ國產車ト外國車ニ區別シテ見ルト次ノ
 如シ(一九三四年分未詳)

國產車	一九三三年		一九三四年	
	乗用車 台	貨物車 台	乗用車 台	貨物車 台
Opel	一、二四三二	一、七五二	二、八四九四	二、〇五〇
Adler	四、七四〇	二、二二八	七、四七六	二、〇〇一
Deimler-Benz	五、三二八	一、二三六	七、八四四	二、四二三
Wandorfer	一、七二六	X	四、二六五	X
Hanomag	二、四九六	X	四、六七五	X
Krupp	X	二〇四	X	五、四二二
Goliath	X	二、六四	X	一、五二二
Bussing-NAG	X	六、三六	X	一、〇一三
B.M.W.	三、五二〇	X	五、三二二	X
計	台	台	台	台

小計	其他	Ford	Citroen	Flat	Chevrolet	其他	小計
四、五九六	一、一七六	一、五九六	五二八	九四八	三四八	一、一七六	三六、五一六
一、四五二	一八〇	九〇〇	X	X	三七二	一八〇	五、五八〇
六、〇四八							四、二〇九六
七、四〇二	一、一九八	三、九九六	九六八	九四六	二九四	一、一九八	一〇、三〇〇
一、四六〇	八二	一、一六〇	X	X	二一八	八二	二、三六二
八、八六二							八、四七五九

(上表中 X ノ台數ハ「其他」ノ中ニ含まル)

	米 國	英 國	佛 國	獨 逸	伊 國	日 本
一九三二年	四八	三〇〇	二五〇	一〇〇〇	一四〇〇	六四九〇
一九三三年	五〇	二九〇	二二〇	九六〇	一三〇〇	六三三〇
一九三四年	五〇	二七〇	二二〇	七五〇	一一九〇	六三五〇

自動車一台ニ對スル人口數

即チ獨逸國産自動車ノ販賣數ハ一九三二年ニ對シ一九三三年ハ約二倍強ノ激増ヲ示シ外國車ノ增加率ヲ遙カニ凌ゲリ唯一九三三年ニ外國車販賣數量ガ増加シタルハ次ニ述ブル自動車稅ノ減免ノ法令公布セラレ新車ノ需要激増シタル餘意ヲ受ケタルモノト思料セラル

更ニ獨逸國內自動車數ト人口トノ比率ヲ諸外國ノ同比率ト對比セバ

右表ニ依レバ最近ニ於テハ獨逸及伊太利ニ於テ著シク自動
車ノ數量ノ増加シタルコトヲ知り得ベク特ニ獨逸ニ於テ著
ナルコト注意ニ値ス。

輸出状況

獨逸ハ一九三三年其生産自動車ノ約一二%ヲ輸出セルガ其六
大生産國ノ總輸出ニ對スル割合ハ一九三一年ノ四・八%、一
九三二年ノ七・五%ニ對シ五・五%ニ營リ米、英、佛、及加
ニ次ギ第五位ヲ占ム。

而シテ自動車及同部分品ノ輸出ノ金額ハ前々年ニ比スレバ四
〇%ノ減少ナリシモ尙三二・八百万馬克ニ上レリ。

而シテ自動車ノ主要輸出先トシテハ瑞西ガ第一、其他西班牙
白耳義、和蘭、佛國等ニシテ中瑞西ヘノ輸出ハ一九三三年ニ
ハ金額ニ於テ全体ノ二〇%ヲ占ム。

他方其輸入ハ近年減少シ一九三三年ニハ六・九百万馬克ヲ算
セリ。更ニ之ヲ國別ニ觀レバ米國及伊太利多ク其他英、奧
等ナリ。

左ニ自動車ノ輸出入額ヲ掲グレバ

輸 入 額		輸 出 額	
年 別	種 別	年 別	種 別
一九三〇年	乗 用 車 台	一九三〇年	乗 用 車 台
一九三一年	三、九、九、四	一九三一年	三、六、八、二
一九三二年	三、二、四、九	一九三二年	七、九、九、〇
一九三三年	二、五、四、九	一九三三年	八、八、六、〇
一九三四年	五、〇、五、八	一九三四年	一、〇、九、九、四
	貨 物 車 台		貨 物 車 台
一九三〇年	三、八、六	一九三〇年	一、九、二、七
一九三一年	一、一、〇	一九三一年	三、二、一、三
一九三二年	二、〇、九	一九三二年	三、一、六、一
一九三三年	三、〇、二	一九三三年	三、四、九、五
一九三四年	五、〇、一	一九三四年	三、二、四、二
	計 台		計 台
一九三〇年	一、一、三、八、〇	一九三〇年	五、六、〇、九
一九三一年	三、三、五、九	一九三一年	一、一、〇、三
一九三二年	二、七、五、八	一九三二年	一、一、〇、二
一九三三年	二、六、七、四	一九三三年	一、三、三、九
一九三四年	五、五、九	一九三四年	一、三、二、六



四 オペル株式會社ノ現狀

往年オペル會社ハ經營困難ニ陥リタル結果一九二九年總株式
二億万RM.ヲ總テゼネラルモーターズ會社ニ讓渡シ、資本的ニ
モ技術的ニモ擧ゲテG・M會社ノ經營ニ移リタルガ其ノ際獨
逸政府ノ國產獎勵ノ方針ニ從ヒ同會社ニテ使用スル原材料及
外註部分品ハ總テ輸入値段ニテ獨逸國產品ヲ以テ之ニ充ツル
コトトセリ。

而シテG・M會社ハオペル工場ニ於テ小型車 (Klein-Wagen)
ヲ製作シ之ヲ歐洲ノミナラズ全世界ニ供給スルコトヲ目的ト
シ自社ノシボレー車ノ需要ト抵觸セザル様企圖シ現在獨逸輸
出自動車ノ六〇%ヲオペル車ヲ以テ占ムルニ至レリ、(一九
三五年上半期ノ輸出台數一〇五七〇台ノ内オペル車ハ六五八
七台ナリ)

其ノ後近年ノナチス政府ノ外貨輸入防遏、國產獎勵方策ノ強
化セララルニ從ヒ、一九三三年ニ至リオペル個人ノ手ニテG・
M・會社ヨリオペル會社ノ總株式ノ二五%五千萬RM.ノ株式ヲ

買戻シ（其ノ買戻代金ノ支拂ニ付テハ一部現金ノ外、大部分
既往並ニ將來ニ於ケルオベル個人ノ特許權及發明ヲG・M・ニ
讓渡スルコトトナシタル由ナリ）資本的ニハ三對一ノ割合ニ
依リG・M會社トオベルトノ共同經營ノ形式ヲ採ルト共ニ、
オベル會社ノ定款改正ニ依リ役員ノ數ヲ外國人ニ付制限シ半
數ハ獨逸人、半數ヲ外國人トスルコトトナリ、且株主總會ノ
議決權ヲ自國人ニ依リ過半數ヲ占メ得ル様ニシ、之ニ依リ形
式的ニハオベル會社ハオベル及G・M・會社ノ共同經營ノ下
ニ在リテ株主權ノ行使ニ付テハオベルガ優位ニ在ルコトヲ明
カニセリ（註參照）

然リト雖モ *General-Manager*

及 *Finance-Man*

ハ共ニG・M・

會社側ノ米國人ナルノミナラズ技術關係ノ主腦部ハ殆ンド全
部米國人ニシテ、實質的ニハ會社經營ノ實權ハ今尙G・M・
會社ノ手ニ在リト看ルヲ妥當ト思料セラル。但シ前述ノ通り
本會社ハ其ノ原材料及外註部分品ノ殆ンド全部ヲ獨逸國產品
ニ仰ゲルヲ以テ獨逸政府ハ之ヲ國產車製作者トシテ取扱ヒ

ホムナ ノフオード工場トハ區別シテ保護ヲ加ヘツツアル状態ナリ。猶オベル會社自身及一部同業者ハ現在オベル會社ハ技術上ハ勿論財政上ニモG・M・會社ノ羈絆ヲ脱シ居レル旨ヲ力説シ居レリ。

(註)

獨逸ニ於テハ往年ノインフラオシ時代盛ナル外資ノ流入ニ依リ企業經營ノ實權ガ著シク外國人ノ手ニ移リタルヲ以テ當時政府及民間有力者協議ノ結果、立法手段ニ據ラズシテ定款ニ於テ株主總會ノ議決權ヲ株式數ニ依ラズ自國人ニ一株式ニ付數個ノ議決權ヲ附與スル様改正シタルコトアリ。オベル會社ノ定款ハ近年ノ改正ニ係ルモノナルモ、其ノ以前ニ於テ鑛山會社、燐寸會社、機械會社等ノ間ニ其ノ事例アリ。

而シテ數年前獨逸政府ガ獨逸法律協會ヲシテ組織セシメタル株式制度調査委員會ガ一九三五年初期ニ發表セル報告ハヒットトヲ政府治下ノ産業統制ノ強化、經濟組織改革ノ強

行ヲ目論メル新傾向ヲ反映シ、上記ノ株主ノ議決權ノ數ヲ
株式數ニ依リ制限セザル事例ヲ法律化シ進ンデ一會社ノ幹
部或ハ指導者ノ權限ヲ著シク強化セシメ群小株主ノ權利ハ
ル可ク除外又ハ制限セントスル所謂指導者本位主義ヲ強
調セリ。

イ 太利

一、許可事業ニ依ル自動車工業ノ統制

伊太利ニ於テハ自動車工業ハ許可事業ト爲シ居ルモ許可附與ノ條件ハ明定セラレ居ラス只主務官廳ハ個々ノ場合ニ付特定委員會ノ意見ヲ徴シタル上競争防止ヲ主眼トシ審査決定スルノミナリ(自動車工業ニ關スル特別法ナク一九二九年ノ國防關係製造業取締ニ關スル緊急勅令並一九三三年ノ商工業ニ關スル法律等ノ適用アルニ過キス)

二、伊太利ニ於ケル自動車工業ノ保設施設

一、關稅政策

伊太利ニ及ケル自動車及同部分品ノ輸入稅率ハ從量稅ニシテ原動機(種類ヲ問ハス)ニ依リ選轉セララル自動車

(B) 乗客運搬用

リラ

重量一、二〇〇疋ヲ超エサルモノ	一〇〇疋ニ付	二三五〇
重量一、二〇〇疋以上ノモノ		二五七五



(b) トラクター

八二五

(c) 其ノ他 (但シ工業用ニ使用セラルル自動車ヲ含ム)

重量七〇〇疋ヲ超エサルモノ 一〇〇疋ニ付、七六〇

重量七〇〇疋以上、一、二〇〇疋迄ノモノ 二、三五〇

重量一、二〇〇疋以上、一、八〇〇疋迄ノモノ 一、八七〇

重量一、八〇〇疋ヲ超ユルモノ 一、五三〇

自動車用ボディ及其ノ部分品

(a) 乗客運搬用 一〇〇疋ニ付 三、一四〇

(b) 其ノ他 一〇〇疋ニ付 二、〇一〇

自動車用内燃機関

(a) 重量一〇〇疋ヲ超エサルモノ 一〇〇疋ニ付 三、四四〇

(b) 重量二〇〇疋以上、三〇〇疋迄ノモノ 三、〇〇五

(c) 重量二〇〇疋ヲ超ユルモノ 三、二九五



自動車部分品（特ニ揚ケサルモノ）

(a) 機關部、動力傳達裝置及操向機ノ構成部分品

- (1) 粗材 一〇〇 疋ニ付 一、八六〇
- (2) 加工シタルモノ 三、四三〇
- (b) 其ノ他

(1) 粗材 一〇〇 疋ニ付 一、四三五

(2) 加工シタルモノ 三、一四〇

ナルカ乗用車及貨物車ニ就テノ相當從價稅ヲ見ルニ

乗用車	從價
貨物車	一三三・八%—一九五・八%
	一三八・六%—一七六・一%

トナリ伊太利ニ於テハ自動車工業ノ國產保護施設トシテ右ノ如キ十數割ニ相當スル禁止的^高關稅政策ヲ採リ居ルモノト思ハ

二 輸出奨励策

政府ハ輸出自動車ニ對シテハ平均重量一吨ニ付一・七五リラノ
戻税ヲ爲セリ

輸入制管制度

各種自動車及其ノ部分品、其ノ他自動自轉車ニ付テ輸出金額ノ
二五%ニ相當スル輸入ヲ認め居レリ

其ノ他補助金ハ交付セサルモ政府ハ隨時ノ買上ニ依リ間接ノ保
護ヲ與ヘ居レリ

第三 伊太利自動車工業ノ概観

使用狀況

一九三四年ニ於ケル自動車登録臺數ヲ示セハ

乗用車 二六五八四七臺

貨物車 九五五〇〇臺

乗合車 九五四九臺

計 三七〇八九六臺



三 生産状況

伊太利自動車工業ハ主トシテトリノ及ミラノ地方ニ存在シ就中トリノ市ノ自動車企業ノ如キハ代表的組織ニシテ完備セル一貫作業ヲ爲シ得ル工場ヲ有セリ

伊太利ニ於ケル自動車ノ大製造企業ハ「ツイアット」及「ラソネヤ」ノ二社ニシテ中「ツイアット」製自動車ハ全伊太利市場ノ七〇乃至八〇%ヲ独占シ居ルト共ニ同國輸出車ノ大部分ハ同社製品ナリ

最近數ケ年間ニ於ケル自動車ノ生産額ヲ示セハ左ノ如シ

年別	車種別	
	乗用車	貨物車及乗合車
一九三二年	二五六〇〇	三五〇〇
一九三三年	三三〇〇〇	一〇〇〇〇
一九三四年	三三〇〇〇	一〇〇〇〇
		計
		二九一〇〇
		四三〇〇〇
		四三〇〇〇
		四三〇〇〇

三輪出入状況

年別	輸出臺數	輸入臺數
		(トラックサイクル等を除く)
一九三一年	一、九三七	一、二七六
一九三二年	六五七八	八二三
一九三三年	七四七七	一、三一九

チエツコスロヴァキア

一 一般企業ノ統制策ト自動車工業

政府ハ自動車及其ノ部分品ノ製造業ニ對シ特ニ許可制度ヲ設ケ居ラス且法例上自動車會社ノ資本ノ内外ニ依リ差別待遇ヲ爲ササルモ一八九九年ノ商法附屬閣令(莫洪國時代ノ法律ナルモ)エツコスロヴァキア國ハ之ヲ繼承ス(第一條ニ基キ總テ株式會社創立ノ際定款ハ商工省及内務省ノ許可ヲ得ルヲ要ストセラレ居ルヲ以テ政府ハ之ニ依リテ自動車工業ノ濫立ヲ防クト共ニ事實上外資自動車會社ノ設立カ本國ノ利益ニ反スト認メラルル場合ニハ設立ノ許可ヲ與ヘサル様取締ヲ爲シ得ヘキナリ然レ共現在ノ自動車會社ハ總テ株式會社ニシテ其ノ株ハ自由ニ市場ニ販賣セラレ居ルヲ以テ一部外國資本ノ参加スルニ至ルコト云フ迄モナクシユヨ會社ノ如キハ佛國シニナイヰ會社ニ依リ其ノ資本ノ相當部分ヲ把握セラレ居ル由ナリ



第三 關稅政策

國內ノ自動車工業保護ノ爲外國ヨリノ輸入車ニ對シ左記ノ如ク相當ニ高率ナル關稅ヲ賦課シ居レリ

(1) 乗用車（自動自轉車ヲモ含ム）、車台 (Chassis) ニシテ發動機ヲ有スルモノ及有セサルモノ並ニ車体 (Carrosseries)

（稅番五五三）

一〇〇〇疋ヲ超ヘザルモノ 百疋ニ付 二、三〇〇「クローニン」

一、〇〇〇疋ヲ超ユルモノ 二、七〇〇「クローニン」

尙八万「クローニン」ヲ超ユル車台及自動車ノ車体カ八萬「クローニン」ヲ超ユルモノニ對シテハ從價二五%ノ附加稅ヲ課セラル

(2) 貨物自動車、及乘合自動車之等ノ車台（發動機ヲ有スルモノ及有セサルモノ）及車体

一、五〇〇疋ヲ超ヘサルモノ 百疋ニ付 一、九〇〇「クローニン」

一、五〇〇疋以上三、〇〇〇疋迄ノモノ百疋ニ付 一、七〇〇「クローニン」

三、〇〇〇 疋ヲ超ユルモノ 百疋ニ付 一、四〇〇 「クローン」

一、五〇〇 疋ヲ超ヘサルモノ 百疋ニ付 五四〇 「クローン」

一、五〇〇 疋以上三、〇〇〇 疋迄ノモノ 百疋ニ付 六八〇 「」

三、〇〇〇 疋ヲ超ユルモノ 百疋ニ付 五二〇 「」

以上輸入税ノ外取引税トシテ従價三分ノ税金ヲ課セラル

(二) 自動車及飛行機用發動機 (税番三五四)

五〇 疋迄ノモノ 百疋ニ付 四、八〇〇 「クローン」 (協定税率)

五〇 疋以上二五〇 疋迄ノモノ 三、三〇〇 「」 ()

二五〇 疋以上五〇〇 疋迄ノモノ 三、〇〇〇 「」 ()

五〇〇 疋ヲ超ユルモノ 二、七〇〇 「」



第三、其ノ他自動車工業獎勵ト見ラル可キ政府ノ諸施設

一、補助金ノ交付

自動車及部分品ノ製造業者ニ對シ政府ハ表面上何等補助ヲ爲シ居ラス然レ共自動車製造會社中ノ大部分ハ同時ニ飛行機及其ノ發動機ヲ製作シ居ル處之等ノ製造者ニ對シテハ研究費等ノ名目ノ下ニ國防省ヨリ補助金(金額不明)ヲ交付シ居ルヲ以テ當該會社ハ間接的ニ政府ノ補助ヲ受ケ居ルモノト云ヒ得ヘシ

二、需要強化策トシテノ國產獎勵

政府ハ政府又ハ公共用自動車ニハ總テ國產車ヲ使用セシムルト同時ニ乗合自動車營業者ニハ總テ國產車ヲ使用セシムルコトトセリ但シ例外トシテ登山用遊覽車ノ如キ強力ナル馬力ヲ必要トスル特殊車ニ就テハ政府ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ外國車ヲ使用スルコトヲ得ルコトトセリ

第四、チエツコスロヴァキア國ニ於ケル自動車使用台數、生産額及製造會社

一九三四年末現在使用自動車調 (使用届出済ノモノヲ示ス)

原產地國別	車種			計
	乗用車	貨物車	兼合用車	
チエツコスロヴァキア	六六、四八八	二〇、八一	三、四六一	九〇、七六〇
北米及加奈陀	五、九七八	五、三三四	二、三八	一一、五五〇
英吉利	二〇七	六六	一	二七四
白耳	一四四	二六	一	一七一
佛蘭西	三、六六二	五〇五	一九	四、一八六
伊太利	三、四二七	五七六	二八	四、〇三一
總地利	九九〇	九一七	六〇	一、九六七
獨逸	二、五二三	八三二	四四	三、三九九
其他	二〇一	一〇九	四	三一四
合計	八三、六二〇	二九、一七六	三、八五六	一一六、六五二



生產額

年別	車種別	乘用車	貨物車及乘合車	計
一九三二年		一〇、六三五	二、九四五	一三、五八〇
一九三三年		八、六七〇	一、三三〇	一〇、〇〇〇
一九三四年		八、〇〇〇	二、〇〇〇	一〇、〇〇〇

(イ) 国内ノ自動車製造會社ヲ列舉スレハ左ノ如シ
 (ロ) 自動車ノ外飛行機及其ノ發動機ヲ製造スルモノ

會社名	所在地	資本關係
シュコダ (株式會社) Skoda	ブルセン	相當佛國資本參加
ズプロヨウカ (株式會社) Zbrojovka	ブルノー	大部分政府ノ所有
ウオルター (株式會社) Walter		主トシテ「チエツコスロヴァキア」資本
アエロ (株式會社) Aero	ブラーグ	一部資本政府所有
チエスコモラヴスカ (株式會社) Českomoravská Kolben-Darok	ブラーグ	相當瑞西資本參加ノ邊

(ハ) 自動車及其ノ部分品ノミヲ製造スルモノ

タトラ (株式會社) Tatra	ブラーグ	専ラ「チエツコスロヴァキア」資本
ヱイコフ (株式會社) Vikov	モラヴィア	専ラ「チエツコスロヴァキア」資本

佛蘭西

第一、補助金ノ交付

一九一〇年軍用自動車補助法ヲ發布シ重自動車貨物車及各種自動車ニ對シ購買及維持補助金ヲ交付ス
 又木炭自動車製造ニ對シ補助金（一臺製造ニ付三年間ニ亘リ約一萬法）ノ制庶アリ

第二、關稅政策

自動車及部品、附屬品中乗用車（乗合車ヲ含ム）貨物車及同シヤシニ對シテハ從價及從量稅ノ兩制ヲ採用ス。即左記ノ稅率ノ適用ヲ受クルモ無條約國ヨリノ輸入ニ對シテハ從價最低ヲ七〇%條約國ニ對シテハ從價最低四五%ヲ徵集ス

A 乗客運般用車

(a) 車重一トナリヨ有スルモノ（完成シタルモノ及未完成ノモノ）

車重	一般稅率	協定稅率
一トナリ以下	三二〇〇	八〇〇
一トナリ以上一トナリ以下ノモノ	三二〇〇	九二五
止味一トナリニ付	三二〇〇	九二五

一臺ノ重量	一、五〇〇疋以上、七五〇疋以下ノモノ	正味二〇〇疋ニ付	四、二〇〇	一、〇五〇
"	一、七五〇疋以上、二、〇〇〇疋以下ノモノ	"	五、一〇〇	一、二七五
"	二、〇〇〇疋以上ノモノ	"	六、二〇〇	一、五五〇

(b) 窓子一ヲ有セザルシヤシ一(機關ヲ有シ又ハ有セザルモノ、空氣入多イヤ一ヲ附シ又ハ附セザルモノ)

(c) 一臺ノ重量 重量二、〇〇〇疋以上ニシテ四五米以上ノ
窓子一ヲ附シ得ル乗合自動車用ノモノ

(2) 其ノ他	一臺ノ重量八五〇疋以下ノモノ	正味一〇〇疋ニ付	三、六〇〇	九〇〇
---------	----------------	----------	-------	-----

"	八五〇疋以上、二五〇疋以下ノモノ	正味一〇〇疋ニ付	三、二〇〇	八〇〇
---	------------------	----------	-------	-----

"	一、二五〇疋以上、一、五〇〇疋以下ノモノ	"	三、七〇〇	九二五
---	----------------------	---	-------	-----

"	一、五〇〇疋以上、一、七五〇疋以下ノモノ	"	四、二〇〇	一、〇五〇
---	----------------------	---	-------	-------

附一〇〇 附七五

B 貨物運搬用車

一 臺ノ重量、七五〇 疋以上ノモノ

六二〇〇 一、五五〇

(a) ボゾーヲ有スルモノ (完成シタルモノ及未完成ノモノ)

一 臺ノ重量、一五〇 疋以下ノモノ

正味 一〇〇 疋ニ付 二、五〇〇 六二五

一、一五〇 疋以上ノモノ

三、八〇〇 七〇〇

(b) ボゾーヲ有セザルシヤシ

(機關ヲ有シ又ハ有セザルモノ
空氣入イヤ等ヲ附シ又ハ附セザルモノ)

正味 一〇〇 疋ニ付 三、三〇〇 八〇〇

C ボゾー及其ノ部分品 (室内裝飾シタルモノ及裝飾セザルモノ)

正味 一〇〇 疋ニ付 三、二〇〇 八〇〇

D 其ノ他 (一品目多數ニ付省略)

備考

C、及Dハ重量税ノミナリ

第三 自動車工業概観

一 使用状況

一九三四年ニ於ケル佛蘭西ノ自動車臺數ハ

乗用車	一、五八六、六五三臺
貨物車	四、五〇〇、〇〇〇臺
計	六、〇八六、六五三臺

二 生産状況

自動車製造會社ハ多數アルモ其ノ中主要ナルモノハシトワユン、ルノ一及プージヨ一ノ三社ニシテ全生産ノ約七割ヲ占ム。尙外國會社ニシテ佛國內ニ組立工場ヲ有シ部分品ヲ輸入シ製造スルモノニフオード社（一九二五年設立ノ佛國籍株式會社、資本金一億三千萬法、本店及工場所在地巴里郊外）アリタルモ右フオード社及マテス社（一九二二年株式會社トナリタル佛國會社、資本金四萬法、本店及工場所在地ストラスブルグ）ノ兩社ハ最近合併ノ形式ニ依リマテス會社ヲ買收シ新會社ハMetzford 會社ト稱シ今後ストラスブルグ工場ニ於テハフオードノ部分品ヲ作り巴里工場ヲ

組立工場トスル豫定ニ目下兩工場改造中ナルガ本件ハ佛國自動車業者間ニ於テ問題トナリ關係當局モ之ニ動カサレ審査ヲ爲シタルガ形式上ハ二個ノ佛國會社ノ合併ナルヲ以テ買收阻止ノ餘地ナシト認メラレタル爲營業者モ泣寢入トナリタリ
其ノ他伊太利ノワイアツト社ハシヤシノノミヨ輸入シ組立ヲ行ヒ居レリ

左ニ最近數箇年ノ生産臺數ヲ示セバ

年別	種類別	
	乗用車 台	貨物車 及乗合車 台
一九三二年	一三七七一〇	三三、二四五
一九三三年	一六三、七七〇	二八、一五九
一九三四年	一五、三三四	二五、〇〇〇
		計 台
		一七〇、九五五
		一九、九二九
		一七、六三四

三、輸出入狀況

左ニ最近ノ輸入額ヲ示セバ

年別	種類別		計
	乗用車 (シャシーヨ含ム) 台	貨物車 (シャシーヨ含ム) 台	
一九三一年	二四二四	三四三	二七六七
一九三二年	一七八九	一七二	一九六一
一九三三年	二二一四	九九	二三一三

ニシテ其輸出箱ハ

年別	種類別		計
	乗用車 台	貨物車 台	
一九三二年	一四四八五	一、七七六	一九二〇六
一九三三年	二一、六〇一	一、四八四	二五、四六一

ナリ

第一・自動車及部分品ノ輸入許可制度

政府ハ自動車及部分品ノ輸入ニ對シテハ可成嚴格ナル制限制度ヲ採用シ特ニ自動車其ノモノノ輸入ニ付テハ一切政府ノ許可ヲ必要トシ而シテ乗用自動車ニ關シテハ國內ニ製造工場存セサルモ政府ノ方針トシテハ右輸入許可制度ニ依リ一面貿易ノ「パス」ヲ保持及通商商議ノ爲ノ武器トシ（其ノ割當量ニ關シ政府間又ハ當業者間政府間ノ商議ノ目的トナリタル例アリ）他面ニ於テハ可成瑞西國內ニ於テ之ヲ組立テシムル方針ナルカ如シ依テ外國品ト雖モ之ヲ裸車台ノ儘輸入シ國內ニ於テ組立ツル保證ヲ與フルトキハ比較的容易ニ政府ノ許可ヲ得ヘク之カ爲「サウロ・イスマラー・コーンレ・シヨシ」ハ Sauro 會社ト協定シ裸車台ヲ輸入シ同會社ヲシテ之ヲ組立テシメ組立、色塗、座席設備「多イヤ」、蓄電池、照明器具ニ付テハ瑞西品乃至瑞西ノ勞力

トラクタ等(農業用ヲ除ク)

合計

六二〇台

八六六八四台

右自動車ノ製造國別台數ハ次ノ通り

國名	乗用車	乗合自動車	貨物自動車
露西	六四七	九二四	五五六三
佛蘭西	一四二一二	六二	二四五六
獨逸	六一九四	四〇	一、二一〇
伊太利	一、二七五三	一一九	一、八二〇
埃地利	三九六	一	六〇
白耳義	七二七	一	一〇二
英吉利	三、〇一六	一七	七四一
北米合衆國	二、九四二四	一四〇	六、三九七
其ノ他	二五	一	一七
合計	六六、三九三	一、三〇四	一八、三六六

三

生産状況

瑞西ニテ使用セラルル乗用車ハ殆ト全部外國品ニシテ乗合及貨物自動車ハ比較的國産品多シ

瑞西ニ於テ會テハ乗用者製造工場存シタルモ外國品トノ競争

ノ爲立行カズ廢棄シ目下製造工場トシテハ貨物及乗合自動車

工場トシテ Sauger 會社（在「アルゼンチン」）及 Berna

會社（在「ブラジル」）ノ二會社アルノミ

國産部分品トシテハ電氣機械器具最モ多ク特ニ Oerlikon 印

蓄電池 Scintilla 印照明器具ハ外國品ニ比シ少シモ劣ラザ

ルモノト稱セラル、又「ドイツ」ノ製造モ最近勃興シタリ

左ニ最近數箇年間ノ生産額ヲ示セハ

年別	車種別	乗用車	貨物車及乗合車	計
一九三二年		二七	九六九	九九六
一九三三年		一	四八〇	四八〇
一九三四年		一	四〇〇	四〇〇

奧太利

第一自動車工業ノ保護政策

一 關稅政策及輸入制限

政府ハ自動車ニ對シテハ高率ナル輸入稅ヲ賦課ス但シ毎年一國ヨリ輸入セラルル自動車ニ付最初ノ八十台及之ヲ超ユル二十台ニ對シテハ夫々輕減セル輸入稅ヲ規定シ其ノ輸入ヲ許可シ居ルモ右當以上ヲ輸入セントスル場合ニハ當國產鐵鑛石ノ輸入ヲ條件トシテ之ヲ許可スルコトトセリ

從來ハ自動車及部品ノ輸入稅率ハ高率ナリシ爲其ノ輸入極メテ困難ナリシ爲英、米、佛、伊ノ諸國ヨリ屢々苦情出テタルモ前段但舊以下ノ例外的規定制定以來^右苦情ハ終止セリ尙佛、伊兩國ハ右例外的規定以上ニ殊遇ヲ受ケ居ル事ナリ

三 需要強化策トシテノ國產獎勵

自動車工業ニ對シテハ補助金ヲ交付セサル代リ左ノ方策ニ依リ
 間接ニ内國工業ヲ保護スルモノト認メラル即チ「國產自動車ヲ
 使用スルコトヲ條件トシテ乗合自動車並ニタクシーノ營業ヲ許
 可スルコト之ニシテ而シテ現在當國內ニ於ケル右兩種營業ニ
 使用セル車ハ殆ント全部「*フォルクワーゲン*」會社（國內資本ノ株式會社
 ニシテ其ノ製造ニ係ル車ヲ *Volkswagen* ト稱シ保護ノ對照トス）
 ノ製品ナル趣ナリ

第三 使用狀況及生産狀況

奧太利ニ於ケル一九三四年ノ自動車使用台數ハ左ノ如シ

乗合車	三九七七一台
貨物車	一五一八四台
輕便車	二、八一一台

當國ニ於ケル外資系統ノ自動車製造會社トシテハワイアト會社
 (大部分伊國資本) 及ウシムルウシムルカケ(小部分佛國資本)ノ二
 工場ニシテ其他ハ一級ニハ國內資本ニ依リ經營セラレ居レリ
 左ニ最近數年間ノ生産額ヲ掲ゲレハ

年別	種類別		計
	乗用車	貨物車及 台乘	
一九三二年	一、三七五	九八九	二、三六四
一九三三年	一、一五〇	四二五	一、五七五
一九三四年	一、一〇〇	四〇〇	一、五〇〇

米國
第二

關稅政策

米國ニ於ケル自動車及部分品ノ關稅率ヲ示セバ

乘用車	從價	一〇%
貨物車	" "	二五%
大型乗合車	" "	二五%
部分品	" "	二五%

米國ハ世界第一ノ自動車生産國ニシテ乘用車ノ製造特ニ發達シタル結果其ノ關稅率ハ特ニ低率ニシテ他ノ自動車製造工業ノ未ダ充分ナル發達ヲ見ザル國々トハ大ニ異リ逆ノ現象ヲ呈シ居レリ。

第三 自動車工業概観

一、使用狀況

最近數年間ニ於ケル自動車使用臺數ハ左ノ如シ

年別	種類別	乘用車台	貨物車台	計台
一九三一年		二二,五六七,三八一	三四,二六五,一五	二五,九六三,八九六
一九三二年		二一,一三九,〇九二	三二,〇二七,七三〇	二四,三四一,八二二



一九三三年	二〇、五五七、四九三	三、二二六、二〇〇	二、三八四、九三二
一九三四年	二一、四四六、一九一	三、三〇五、四五三	二、四七五、六四四

三、生産状況

最近数年間に於ける自動車ノ生産額ヲ示セバ

年別	種類別	乗用車 台	貨物車 台	計 台
一九二九年		四、七九四、八九八	八、二六八、一七七	五、六二二、七一一
一九三〇年		三、九一〇、一八七	五、九九九、九一	三、五一一〇、一七八
一九三一年		二、〇三八、一八三	四、三四一、七六	二、四七二、三五九
一九三二年		一、一八六、二〇九	二、四三二、八五	一、四三三、四九四
一九三三年		一、六二七、三六七	三、五八六、一四	一、九八五、九八一
一九三四年		二、二八二、六三七	六、一一九、九二	二、八九五、六二九

備考

若し生産額中ニハ加奈陀ノ分ヲモ含ム。而シテ加奈陀ノ生産額ハ
一九二九年ノ二六三、六二五臺ヲ最高トス



次ニ右ノ乗用車ノ生産額ヲ主要製作群別ニ觀ルニ

年	モリス	フォード社	ゼネラルモーターズ	其ノ他	計
一九二九年	八・三	三五・六	三二・四	二三・七	一〇〇・〇
一九三〇年	八・四	四一・一	三四・三	一六・二	一〇〇・〇
一九三一年	一二・四	二七・八	四四・〇	一五・八	一〇〇・〇
一九三二年	一七・八	二八・九	三七・一	一六・二	一〇〇・〇
一九三三年	二五・二	二三・一	四一・三	一〇・四	一〇〇・〇
一九三四年	二〇・三	二六・四	三九・〇	一四・三	一〇〇・〇

三 輸出入状況

左ニ米國ニ於ケル自動車及部分品ノ輸出額ヲ掲グレバ

計	一九三三年		一九三四年	
	臺	價 千額弗	臺	價 千額弗
乗用車	六七三五五	三三九四五	一四八三八七	八〇六〇四
貨物車	四四一〇三	二〇六九一	九三七六六	四五一二五
部分品及 部品				六七六四二
計	一一、四五八		二四、一五三	一九三、三七一



加考

乗用車及貨物車ニハシヤシロヲ含ム

自動車輸入額

一九二九年	七五〇臺
一九三〇年	七〇九臺
一九三一年	七三六臺
一九三二年	五四〇臺
一九三三年	五三四臺
一九三四年	五八九臺

英國

第一 關稅率

自動車及部分品附屬品ノ關稅率ハ左ノ如シ

自動車、自動二輪及三輪車	從價三三・五分%	(特惠 二二・九分%)
同部分品附屬品	〃 三三・五分%	(特惠 二二・九分%)
運轉手用小道具	無稅	

第二 自動車工業概観

一 使用狀況

一九三四年ニ於ケル英國ノ自動車使用臺數ハ

乗用車	一、三六三、七〇四臺
貨物車	四二七、九二〇臺
乗合車	八九、二六五臺
計	一、八八〇、八八九臺

三 生産狀況

英國ノ最近數ヶ年間ノ生産額ハ



三、輸出入狀況

英國ニ於ケル自動車ノ輸出額ハ

年別	車種別	乗用車	乗貨物車及	計
一九三二年		一八六一一六	五八三一八	二四四四三四
一九三三年		二一六一四九	六四三七七	二八〇五二六
一九三四年		二六一九一四	八〇三一六	三四六二三〇

年別	種類別	乗用車	乗貨物車及	計
一九三一年		一九九九二	五三二〇	二五三一二
一九三二年		三〇〇五〇	八〇〇〇	三八〇五〇
一九三三年		四一〇二八	一〇六七三	五一七〇一



輸入額

年別	種類別		
一九三三年	乘用車	三、五九二	台
一九三二年	乘用車	三、四五〇	台
一九三一年	乘用車	三、一〇一	台
一九三三年	貨物車及 乘合車	四二五	台
一九三二年	貨物車及 乘合車	三四七	台
一九三一年	貨物車及 乘合車	一、五〇七	台
一九三三年	計	四、〇一七	台
一九三二年	計	三、七九七	台
一九三一年	計	三、六〇八	台

ソヴィエト聯邦

第一 自動車工業ノ國營

ソ聯邦ニ於テハ自動車製造ノ如キ重要工業ハ國營タルコト云フ迄モナク又自動車ハ主トシテ國家又ハ公共機關ノ所有ナルト同時ニ外國製自動車ノ輸入ニハ外國貿易人民委員部ノ許可ヲ必要トスルヲ以テ斯業並ニ自動車ノ需給ハ政府ニ依リ統制セラル

第二 關稅政策

自動車及部分品ノ輸入稅率ハ左ニ示ス如クニシテ乗用車及部分品ハ貨物自動車ニ比シ高率ナリ
輸入稅

(i) 完成車ニ對スル稅率

一 乗用車 八人乗以内

從價 五〇%

二 乗合自動車

從價 一五%

(ii) 貨物自動車

從價 一二%

(iii) 部分品

五〇%

(iv) 組立用部分品ニシテ工場ニ輸入セラルモノ

一〇%

第三、自動車工業概観

一、使用状況

一九三四年ニ於ケルソ聯邦自動車臺數ハ左ノ如シ

乗用車	三三、五〇〇臺
貨物車	一四、六五〇臺
計	一八、〇〇〇臺

二、生産状況

公表サレタル生産數左ノ如シ

年次	乗用車	貨物車	合計
一九二六	1	1	1
一九二七	1	1	1
一九二八	1	671	671
一九二九	142	1,248	1,390
一九三〇	447	5,322	5,769
一九三一	3,170	17,403	20,573
一九三二	360	25,052	25,412



一九三三	一〇、二〇〇	三九、五〇〇	四九、七〇〇
一九三四	一七、一〇〇	五五、四〇〇	七二、五〇〇
一九三五	一七、〇〇〇	七五、〇〇〇	九二、〇〇〇

右ノ内一九三五年度ノ數字ハ豫定數字(一九三五年度國民經濟ラ
 シン)ニシテ一九三一年度ニ於テ乗用車ヲ多量(三、一七〇臺
 ニ製造シタルハ「ゴリキ」自動車工場カ「フオード」ヨリ材料
 ヲ輸入シテ組立テタルモノニ係リ翌年即一九三二年度ニ於テハ之
 ヲ激減シ一九三三年以降ハ大體ニ於テ自國材料ヲ以テ本格的ニ製
 造スルニ至レルモノナリ

三、輸出入狀況

税關統計ノ示ス處ニヨレハ最近十年間輸入臺數左ノ如シ

年次	乗用車	貨物車	乗合、消防其他	合計
一九二六	九九八	一、〇六〇	三一〇	三、三六八
一九二七	二八九	六四七	二八七	一、二二三
一九二八	五四二	七五〇	一二七	一、四一九
一九二九	?	?	?	五、九四〇

一九三三 一九三四 一九三五

一〇、二〇〇 一七、一〇〇 一七、〇〇〇

三九、五〇〇 五五、四〇〇 七五、〇〇〇

四九、七〇〇 七二、五〇〇 九二、〇〇〇

一九三〇	一九三一	一九三二	一九三三	一九三四	一九三五 上半期
一、九一七	三二八	三六四	三四九	二八五	一五一
四七三七	二五五一	六〇二	八〇	三七	九
一七	一三	一一	一九	一〇六	一七
六六七一	二八九二	九七七	四四八	四二八	一七七

自動車ノ輸出数量ハ左ノ如シ(一九三四年總メテ輸出ス)

一九三四	一九三五 上半期
乗用車	一六〇
貨物車	三二三
乗合、其他	四四
合計	五二七

加奈陀

一、關稅政策

(1) 完成自動車輸入稅

品名	英帝國品ニ對スル稅率	中間稅率	一般稅率
乗用車 (一千二百弗以上)	無稅	二二五	三〇〇
乗用車 (二千二百弗以下ノモノ)	無稅	一七五	二〇〇
貨車	無稅	一七五	二〇〇
其他ノ自動車	無稅	三〇	四〇〇

(四) 組立車部分品輸入稅

(1) 自動車用幌、車体、車輛ニ對シテハ

英帝國內製品 二〇〇

中間稅率 二七五

一般稅率 三〇〇

(2) 其他ノ部分品 無稅



第三 (イ) 修理用部分品及附屬品
自動車工業概観

無 税

一、使用状況

一九三四年ニ於ケル加奈陀ノ自動車臺數ヲ示セバ

乗用車	九五三、五〇三臺
貨物車	一六三、三八五臺
計	一一一六、八八八臺

二、生産状況

最近十ヶ年間ニ於ケル加奈陀自動車生産臺數 (歴年ニヨル) ハ左ノ如シ

一九二五年	一六、九七〇臺
一九二六年	二〇、四七二臺
一九二七年	一七、九〇五臺
一九二八年	二四、二〇五臺
一九二九年	二六、二六二臺
一九三〇年	一五、三三七臺
一九三一年	八、三五九臺
一九三二年	六〇、七八九臺



200974

一九三三年 六五八五二臺
 一九三四年 一一六八五二臺

三輪入狀況

最近十年間ノ加奈陀自動車輸入數量ハ左ノ如シ

年別	種類別	乗用車台	貨物車台	計台
一九二五年		一三、四八六	一、一四六	一四、六三二
一九二六年		二六、三四五	三、一九九	二八、五四四
一九二七年		三三、八二六	三、八〇四	三六、六三〇
一九二八年		四〇、二二六	七、一八二	四七、四〇八
一九二九年		三九、四四六	五、二七八	四四、七二四
一九三〇年		一九、六八三	三、五五〇	二三、二三三
一九三一年		七、四九二	一、二四六	八、七三八
一九三二年		一、一六〇	二、八九	一、四四九
一九三三年		一、〇九八	六、八三	一、七八一
一九三四年		一、九八八	九、一七	三、九〇五



